

# 理由書

本理由書は、都市計画法第17条第1項の規定に基づき、行田都市計画公園の変更についての理由を示したものです。

## I. 公園の概要

2・2・04 壱里山公園は、昭和34年～昭和37年にかけて施行した行田第1（壱里山町）土地区画整理事業にあわせて、昭和35年に計画面積0.5haで都市計画決定しています。

その後、昭和41年に国鉄行田駅が開業し、昭和47年に2・2・04 壱里山公園区域の一部面積0.2haを街区公園として開設し、昭和51年に2・2・04 壱里山公園区域の一部面積0.3haを暫定的に駅前広場として整備しています。



図 壱里山公園周辺の都市計画決定状況

## II. 都市計画（変更）の必要性

JR行田駅東口の交通結節機能の充実を図るため、都市計画公園2・2・04 壱里山公園を廃止し、行田駅東口駅前広場を整備します。

廃止する壱里山公園は、街区公園として地域の憩い・やすらぎの場であるとともに、コミュニティの場であることから、近接地の市有地の一部に、代替となる同等の機能を有する新たな公園を確保するものとします。

駅前広場には緑化を積極的に取り入れ、駅前広場と代替公園とが一体となってにぎわいを創出できるように整備します。

### Ⅲ. 上位計画での位置づけ

#### (1) 第5次行田市総合振興計画（平成23年3月策定）

『第5次行田市総合振興計画』は、行田市の最上位に位置する計画であり、将来像として、「古代から未来へ 夢をつなぐまち ぎょうだ」を掲げ、将来像に基づいた分野ごとの政策手段となる基幹的施策を定めています。

◆第5次行田市総合振興計画（平成23年3月）	
将来像	<b>古代から未来へ 夢をつなぐまち ぎょうだ</b> 埼玉県名発祥の地である本市は、古代から続く悠久の時の流れとともに、豊かな自然と輝かしい歴史、薫り高い文化をはぐくんできました。 先人から受け継いだまちの“財産”に誇りを持ち、守り、継承し、また、市民と行政との創意工夫によるまちづくりを進めることで、未来の市民へと夢をつなぎ、活力と希望に満ちたまちを目指します。
本計画に関連する主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>魅力あるまち並みをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存市街地の充実</li> <li>・地域拠点の創出</li> </ul> </li> <li>● <u>道路環境が快適なまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道・県道の整備促進</li> <li>・人にやさしい道路環境の整備</li> </ul> </li> <li>● <u>安全で快適に移動できるまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色を生かした鉄道輸送の充実</li> <li>・親しまれる駅づくりの促進</li> <li>・市内循環バスの充実</li> </ul> </li> <li>● <u>豊かな緑と水辺環境に恵まれたまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の整備と維持管理の充実</li> <li>・緑化の推進と緑地環境の保全</li> </ul> </li> <li>● <u>魅力ある良好な住環境の形成</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な宅地開発の促進</li> <li>・快適な住宅づくりの促進</li> <li>・住民による住環境づくりの支援</li> </ul> </li> <li>● <u>地域の魅力にあふれたまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源のネットワークの確立</li> <li>・観光情報の積極的な発信</li> <li>・「おもてなしの心」の醸成</li> <li>・観光客の利便性の向上</li> </ul> </li> <li>● <u>商業活動が活発なまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域商業の均衡ある発展</li> <li>・新たな商業活動への支援</li> </ul> </li> <li>● <u>犯罪のない安心なまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯意識の啓発</li> <li>・地域ぐるみの防犯活動の促進</li> <li>・防犯環境の整備</li> </ul> </li> <li>● <u>災害に強いまちをつくる</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識の啓発</li> <li>・地域防災体制の充実</li> <li>・連携体制の強化</li> </ul> </li> </ul>

(2) 行田市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月策定）

『行田市都市計画マスタープラン』では、「水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ」を将来都市像として掲げています。

この中で、壱里山公園・行田駅東口駅前広場を含む西部地域は、「鉄道の利便性を活かし、人々が行き交い、快適に暮らせるまち」を将来像とし、J R 行田駅周辺を、商業、福祉、観光などの様々な都市機能を集約する「都市拠点」と設定し、ゆとりある住環境の形成や交通結節機能の強化を行うことを位置づけています。

◆行田市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月）	
将来都市像	<p align="center"><b>水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ</b></p> <p>笑顔あふれるまちとは、住む人も訪れる人も幸せを感じるまちです。住みよく、暮らしやすいまちで、だれもがいきいきと楽しく暮らしていることが、訪れる人にとって、最大のおもてなし環境です。</p> <p>古代から現代へ人の営みを綿々とつなぎ、未来をきりひらくまち、これが行田です。現代を生きる私たちは、まちをつくり、育て、発展させ、未来につなげていきます。</p>
西部地域	<p align="center"><b>鉄道の利便性を活かし、 人々が行き交い、快適に暮らせるまち</b></p> <p>西部地域では、都市拠点であるJR行田駅周辺の交通結節機能の充実や公共交通ネットワークの強化に加え、転入者や来訪者の増加につながる施策の充実が求められています。</p>
	<p><b>1) 住みたいと思える、快適で質の高いまちづくり</b></p> <p>都心や県南部へのアクセス利便性が高いJR行田駅に近い利点を活かし、南の玄関口にふさわしい都市機能が充実した、子育てがしやすく、快適で質の高い暮らしを実現できるまちづくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①生活支援施設の充実</li> <li>②良好な住宅地の形成</li> <li>③身近な公園・緑地などの充実</li> </ul> <p><b>2) 南の玄関口として、人々が行き交うまちづくり</b></p> <p>南の玄関口であるJR行田駅を有する地域であり、中心市街地や市内各地への交通利便性や交通結節点としての機能を高めることにより、多くの人が集い、行き交うまちづくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①市内各地への交通利便性の向上</li> <li>②市中心部との連続性の強化</li> <li>③JR行田駅周辺の景観の形成</li> <li>④観光案内機能の充実</li> </ul>

(3) 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画（平成 26 年 3 月策定）

『行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画』は、行田らしさを活かしたまちづくりに向け、まち並みづくりとにぎわい創出の 2 つの視点から 6 つの方針を掲げています。壺里山公園・行田駅東口駅前広場においては、JR 行田駅周辺を核として、「利便性を活かした定住と交流によるにぎわいのあるまちづくり」をまちづくりの方針としています。

◆行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画（平成 26 年 3 月）	
行田らしいまちづくりの基本理念	<p>行田らしいまちづくりは、みんなが一丸となり、地域の魅力を引き出すための取組みを行い、周辺にその動きを波及させるといった、各地域での小さな動きを市全体に波及させ、行田らしさの醸成につなげていくものです。</p> <p>この行田らしさの醸成により、そこに住む人だけでなく、学び、働き、来訪する人々も、本市に住みたい、住み続けたいと感じ、行田への愛着が育まれます。</p>
行田らしさを活かしたまちづくりの方針	<p><b>(1)「行田らしい」まち並みづくりの方針</b></p> <p>方針① 行田らしい特徴的な資源と調和したまち並みを形成する            方針② 暮らしと公的空間が一体となったまち並みを形成する            方針③ 住みやすく、快適に過ごしやすいまち並みを形成する</p> <p><b>(2)「行田らしい」にぎわい創出の方針</b></p> <p>方針① 核となる資源を活用し、地域の活性化とにぎわいを広げる            方針② 周辺の資源と連携し、地域から市全体のにぎわいにつなげる            方針③ まちづくりの取組みが相互に連携し、新たなにぎわいを生み出す</p>
JR 行田駅周辺を核としたまちづくり方針	<p><b>利便性を活かした定住と交流によるにぎわいのあるまちづくり</b></p> <p>JR 行田駅は、高崎線により都心まで約 1 時間でアクセスできる利便性を有しており、南の玄関口となっています。この利便性の高い立地条件を活かして、良好な住宅地を形成し、定住を促進します。</p> <p>また、JR 行田駅周辺の拠点性を高めるとともに、忍城址やさきたま古墳群、古代蓮の里などの主要な地域資源との連携を強化し、交流人口の増加を図ります。</p> <p><b>【JR 行田駅周辺を核としたまち並みづくり】</b></p> <p><b>“住みやすい”と思う良好なまち並みを形成し、住み続けることができる環境を形成する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化の推進による緑豊かなまち並みの形成</li> <li>・快適でゆとりある住宅地の形成</li> </ul> <p><b>【JR 行田駅周辺を核としたにぎわいづくり】</b></p> <p><b>南の玄関口としての拠点性を高め、地域資源との連携を強化する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR 行田駅の拠点性の向上</li> <li>・観光資源に関する情報発信機能の充実</li> <li>・市内地域資源を結ぶ地域公共交通ネットワークの充実</li> <li>・JR 行田駅周辺の低・未利用地の活用</li> </ul>

(4) みどりの基本計画書（平成 28 年 3 月策定）

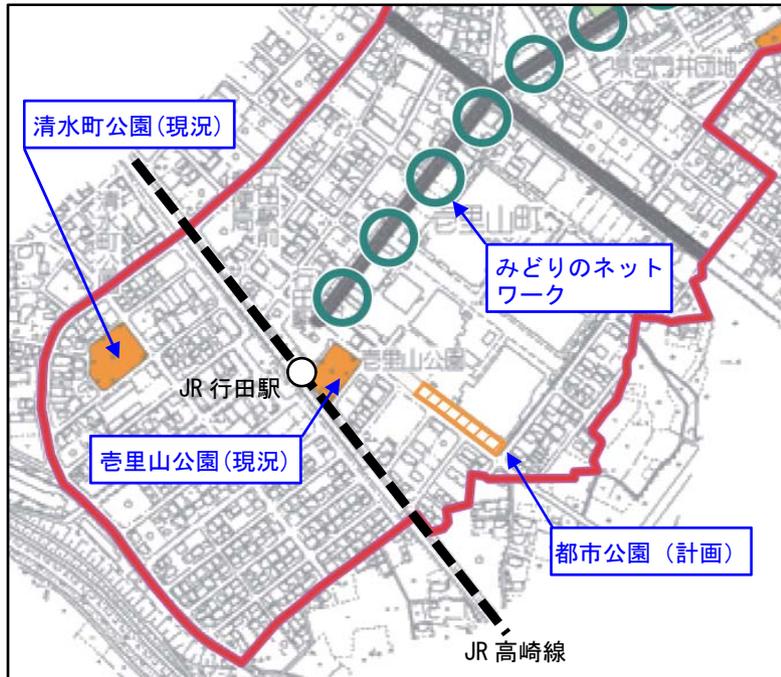
みどりの基本計画策定報告書において、壺里山公園が都市計画変更の予定区域として明記されており、『みどりの基本計画』においても、近接地に代替となる新たな都市公園の計画が位置づけられています。

表 未整備都市計画公園（壺里山公園）の都市計画変更の位置づけ

種別		公園名称	計画面積	整備済面積(ha)	未整備面積(ha)
住区基幹公園	街区公園	玉野公園	0.27	0.00	0.27
		壺里山公園 ※	0.50	0.20	0.30
	計	2箇所	0.77	0.20	0.57
都市基幹公園	近隣公園		-	-	-
	総合公園	水城公園	15.40	12.47	2.93
基幹公園 計			16.17	12.67	3.50
特殊公園	風致公園		-	-	-
	広域公園	さきたま古墳公園	97.00	37.50	59.50
都市緑地			-	-	-
緑道	さきたま緑道		7.00	6.90	0.10
	かすが緑道		0.90	0.00	0.90
	花の里緑道		2.40	2.20	0.20
	計		3箇所	10.30	9.10
都市計画公園 計			123.47	59.27	64.20

※壺里山公園はJR行田駅前広場周辺再整備に伴い都市計画変更を行う予定

(みどりの基本計画策定報告書より)



凡 例

区分	現況	計画	構想
施設緑地			
都市公園			
公共施設緑地		-	-
地域制緑地			
法による緑地		-	-
条例等による緑地			-
みどりのネットワーク			
広域幹線道路			
幹線道路			
都市計画区域			
市街化区域			
住区			

図 みどりの配置計画図による壺里山公園(現況)と都市公園(計画)の位置づけ

IV. 関連する都市計画

関連する都市計画に変更はありません。